

船舶事故調査報告書

平成31年1月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	平成30年6月24日 06時43分ごろ
発生場所	香川県三豊市古三埼東南東方沖 紫雲出山二等三角点から真方位258° 1,100m付近 (概位 北緯34° 14.5′ 東経133° 35.0′)
事故の概要	プレジャーボート暢航号は、西北西進中、転覆した。
事故調査の経過	平成30年8月3日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 暢航号、0.1トン
船舶番号、船舶所有者等	240-59922香川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損、船底外板及び左舷船側部外板に亀裂
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南西、風速 約3～6m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5～1.0m、潮汐 上げ潮の末期、潮流 北西流 約0.2ノット
事故の経過	<p>本船は、分割式小型ボートで、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、三豊市肥地木漁港の東北東方沖の釣り場に到着し、釣りの準備をしていたところ、波が高くなってきたので、釣りを断念し、同漁港に向けて帰航を開始し、古三埼東南東方沖を西北西進していた。</p> <p>本船は、左舷船首部から波高約1mの波が打ち込んで水船状態となったのち、右舷側に傾いて転覆した。</p> <p>本船は、船長及び同乗者2人が転覆した本船の船底に掴まっていたところ、風潮流で北北西方に流され、肥地木漁港付近に漂着した。</p> <p>本船の乾舷は、約20cmであった。</p> <p>船長は、発航前に波高約0.5mという予報を知っており、本船の乾舷が低く波の影響を受けやすいので、発航を控えれば良かったと本事故後に思った。</p> <p>船長及び同乗者2人は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析	<p>本船は、風速約3～6m/sの風が吹く状況下、船長が、発航前に波高約0.5mの予報を知っていたものの、発航したことから、古三埼東南東方沖を出港地に向けて西北西進中、左舷船首部から乾舷を越える波が打ち込んで水船状態となり、右舷側に傾いて転覆したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、風速約3～6m/sの風が吹く状況下、船長が、発航前に波高約0.5mの予報を知っていたものの、発航したため、</p>

	古三崎東南東方沖を出港地に向けて西北西進中、左舷船首部から乾舷を越える波が打ち込んで水船状態となり、右舷側に傾いて転覆したものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾舷を越える波に遭遇するおそれがある場合には、自船の^{たん}堪航性を考慮し、発航を控えること。